

ヤン・ファブル

1958年ベルギー生まれ、ベルギー在住



ベルギーのアントワープを本拠地とするヤン・ファブルは、同時代の最も革新的かつ多才なアーティストの一人です。あの昆虫学者アンリ・ファブルの曾孫としても知られています。美術家、演出家、作家、振付家、詩人としてジャンルを超え、第一線で活躍する彼の作品は、一貫して人間の肉体を希求する姿勢に貫かれ、人間の本质を抉り出す問題作として世界中で議論を巻き起こしてきました。今回あいちトリエンナーレでご紹介する『Another Sleepy Dusty Delta Day』は、2008年のアヴィニョン演劇祭で発表され、絶賛を浴びたソロパフォーマンスです。

ひとりの美しい女性ダンサーによって演じ、踊られ、唄われるのは、死の淵に立たされた女が過ごす壮絶な時間。精巧な鉄道模型が走り回る線路に推詰まれた石炭、籠に閉じ込められた黄色いカナリアは死へと突き進む寂しい女の人生を可視化し、繰り返されるピリー・ジョーの歌の叫びは、切なく、時には激しく世界を切り裂いていきます。

激しく挑発的な作品が多いヤン・ファブルにしては異例ともいえる、このナイヴで美しい、そして残酷な『Another Sleepy Dusty Delta Day』は、最愛の母の死と愛する妻へのオマージュとして創作された唯一無二の作品です。誰もが抱える大切な人への愛と、それを失うその時期(とき)、そして肯定的な死とその選択。この作品はヤン・ファブルから私たちへの「愛と死」への崇高なメッセージとなっています。



ヤン・ファブル「Another Sleepy Dusty Delta Day」
©Christophe Raynaud de Lage

現代美術なんてこわくない!

Who's Afraid of Contemporary Art? [vol.2]

現代美術の箱を開ける

1964年、ニューヨークのあるギャラリーに《さまざまな箱》という作品が展示されました。スーパの「キャンベル」や洗剤の「プロ・ソープパッド」といったロゴの入った箱が、スーパーマーケットの裏側のように雑然と積まれています。

アンディ・ウォーホルによるこの作品は、実は合板にシルクスクリーンという技法で有名メーカーのロゴをプリントしたものでした。でも一見段ボール箱そっくりで殆ど違いは分かりません。「ブリコ」のロゴをデザインしたデザイナーは当然のようにウォーホルを盗用のかどで訴えました。翌年この作品をカナダの美術展のために運ぼうとした際には、「彫刻には見えない。商品だろう」として関税をかけられたといひます。

エクトール・サモラ

1974年メキシコ生まれ、ブラジル在住



表紙下の写真は、メキシコ生まれブラジル在住のアーティスト、エクトール・サモラが2009年のヴェネツィア・ビエンナーレで展開した作品の一部です。サモラは、ヴェネツィアの上空を何艘もの飛行船が飛び交うイベントの映像や写真を展示し、イベント告知のポスターを街中に貼り、記念の絵葉書を販売し、路上の絵描きにその光景を描いてもらっています。

でも実はこのイベントは架空の出来事で、墜落して壁に挟まれた飛行船は、イベントは本当にあったんじゃないかと思わせるための罫。街ぐるみで虚実がない交ぜになってゆく、壮大なプロジェクトです。



エクトール・サモラ「Stuck Zeppelin」((Sciame di dirigibili)より)
2009年、ヴェネツィアでの展示



Pick-up site : Nanyabashi
納屋橋地区

堀川と名古屋のメインストリート広小路通りのクロスポイント「納屋橋」は、400年前名古屋城築城とともに開削された堀川に最初に架けられた7つの橋の1つで、周辺に納屋(倉庫)が多く有ったことから名付けられたといわれています。かつて「泥の河」と呼ばれ異臭を放った堀川両岸には、川に背を向けた建物が建ち並んでいましたが、近年、納屋橋をはさむ両岸にリバーウォークや広場などの整備がすすみ、木曾川湧水などで水質が向上したこともあり、堀川を眺めることができるおしゃれなレストランが次々とオープン。棧橋(ピア納屋橋)からは貸し切りの屋形船も発着、堀川フラワーフェスティバルなど多くのイベントが開催されるようになり、大勢の人で賑わうようになりました。納屋橋地区には、昭和6年築の登録文化財でもある旧加藤商会ビルやミュージカルが楽しめる劇場、また納屋橋東再開発計画もあり、「水と緑と文化のある街」「憩いと潤いのある都心の水辺空間」に変化しつつあります。

※納屋橋会場では、ホーリング場として建設された建物に作品が展示されます。

パフォーマンス・アーツとの出会い

中井美穂

演劇やダンスなどパフォーマンスアートが好きで、時間の許すかぎり観ています。当たりはずれもありますが、掘出し物に出合ったときの歓びは大きく、そのギャップ性が病みつきになりますね。その時間・空間を共有しなければ伝えられない、不自由さのなかの自由度の限界まで使って、想像力を刺激してくる。それも役者やダンサーという他人の肉体や声を使った“まわり道”の表現だからこそ、予想外の何かが生まれるのではないかと。あとであれを見逃したと悔しい思いをしたくないですね。新世代には、チェルフィッチュのように芝居とダンスの境界を越えた、過去の経験値が頼りにならないものも現れました。ダンスならやみくもに勢いのあるものが好きです。ダンサーの体型や雰囲気も、バレエと違い、

えっこの人踊るの?という意外性が面白い。肉体がこんなに動いたら見える世界すら変わるに違いないと思わせる、すばやいエネルギーの動きを感じたくて、足しげく劇場に通っています。(談)



中井美穂(なかいみほ)
1965年ロサンゼルス生まれ。95年にフジテレビを退社後フリーアナウンサーに。現在「旅の香り」(テレビ朝日系)、「タカラヅカ cafe break」(MXテレビ)出演。「世界陸上」(TBS)でもメインキャスターを務める。「ISTORY」(光文社)コラム連載中。

あいちトリエンナーレ2010チケット販売情報

国際美術展(現代美術)				
会期 = 8月21日(土) - 10月31日(日) 販売期間 4月1日(木)から				
特に4月30日(金)までの1ヶ月間は、大変お得な「特別先行前売券」を販売します。				
チケットの種類	販売期間	(4/1 - 4/30)	(5/1 - 8/20)	(8/21 - 10/31)
	区分	特別先行前売券	前売券	当日券
普通チケット	一般	1,000円	1,400円	1,800円
	大学生	700円	1,000円	1,300円
	高校生	300円	500円	700円
その他お得なチケット	ヘアチケット	/	2,600円 取り扱いなし 取り扱いなし	/
	団体割引チケット	/	1,100円 800円 300円	1,400円 1,000円 400円
	フリーパス	/	3,000円 2,000円 1,000円	3,500円 2,500円 1,200円

※中学生以下は無料です。 ※プロデュースオペラ、舞台公演は、別途チケットが必要となります。

舞台公演(パフォーマンス・アーツ)
5月21日(金)から発売する予定です。
詳しくは、ホームページ <http://aichitriennale.jp/> をご覧ください。

あいちトリエンナーレニュース vol.2 [あいちトリエンナーレ2010 機関誌 2号]
2010年4月発行 発行 = あいちトリエンナーレ実行委員会事務局(愛知県県民生活部 文化芸術課 国際芸術祭推進室内)
〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 愛知芸術文化センター6階 TEL.052-971-6111 FAX.052-971-6115 geijutsusai@pref.aichi.lg.jp <http://aichitriennale.jp/>

オフィシャル広報番組「あいちトリエンナーレTV」

あいちトリエンナーレ実行委員会では、東海ケーブルチャンネルと協働して「あいちトリエンナーレTV」を毎月制作・配信中です。参加アーティストへのインタビューや作品の紹介、まちなかのアートレポートなど、最新の旬な情報を毎月発信していますので、ぜひご覧ください。

番組は愛知県の公式ホームページ「あいちインターネット情報局」<http://www.doga.pref.aichi.jp/ch5/index.html>で配信しているほか、東海エリアのケーブルテレビ各局で放送中の「東海ケーブルチャンネル」<http://www.tokai-cable.jp/>でもご覧いただけます(一部地域を除く)。

「あいちトリエンナーレ2010 パートナーシップ事業」を募集中!

パートナーシップ事業になると…

- ◎トリエンナーレのホームページやチラシで、事業の紹介をします。
- ◎チラシやポスターで、トリエンナーレのロゴマークを使っていただきます。

平成 21 年 6 月から 10 ヶ月余りで約 250 件の事業のご協力をいただいています。一覧はホームページで公表中。随時更新しています。詳細はホームページ <http://aichitriennale.jp> をご覧ください。

プロデュースオペラ「ホフマン物語」			
公演日 = 9月18日(土)、20日(月・祝)			
発売日 = 4月3日(土)午前10時			
S席 13,000円 (ヘア23,000円)	A席 9,000円 (ヘア16,200円)		
B席 7,000円 (ヘア12,600円)	C席 5,000円 (ヘア9,000円)	D席 3,000円 (学生2,000円)	

プロデュースオペラ問い合わせ先
(財)愛知県文化振興事業団 TEL. 052-971-5609

チケット取り扱い窓口

愛知芸術文化センター内プレイガイド TEL. 052-972-0430
国際美術展
チケットぴあ (Pコード: 764-093 TEL.0570-02-9999)
イープラスe+ (<http://eplus.jp/> インターネットのみ)
ロソーン (特別先行前売券Lコード: 42730 ・前売券Lコード: 42731)
サークルKサンクス、セブンイレブン、ファミリーマート、その他主要プレイガイドなど
舞台公演
チケットぴあ (TEL.0570-02-9999)
イープラスe+ (<http://eplus.jp/> 座席選択可、インターネットのみ)
その他主要プレイガイドなど
プロデュースオペラ「ホフマン物語」
チケットぴあ (Pコード: 348-673 TEL.0570-02-9999)
イープラスe+ (<http://eplus.jp/> 座席選択可、インターネットのみ)

あいちトリエンナーレ2010



都市の祝祭 Arts and Cities
2010.8.21→10.31
<http://aichitriennale.jp/>



AICHI TRIENNALE NEWS vol.2

[あいちトリエンナーレ2010 機関誌 2号]

あいちトリエンナーレニュース

あいちトリエンナーレ2010

都市の祝祭 Arts and Cities

8月21日(土) - 10月31日(日) [72日間]

会場 = 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場

その他、オアシス 21、広小路通等のオフィス街や商店街、名古屋城などの都市空間で展開するほか、様々な文化芸術施設と連携

あいちトリエンナーレは、3年ごとに開催する国際芸術祭です。記念すべき第一回目は、「都市の祝祭 Arts and Cities」というテーマのもと、現代美術の国際展や舞台公演をとおして、世界最先端の現代アートを紹介していきます。世界の第一線で活躍するアーティストたちの、愛知・名古屋でしか見ることのできない作品の数々をお楽しみください。

あいちトリエンナーレ実行委員会
 芸術監督 = 建畠哲(国立国際美術館館長)
 お問い合わせ = あいちトリエンナーレ実行委員会事務局
 (愛知県県民生活部 文化芸術課 国際芸術祭推進室内)
 〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2 愛知芸術文化センター 6 階
 TEL: 052-971-6111 FAX: 052-971-6115 E-mail: geijutsusai@pref.aichi.lg.jp
 出品予定作家、公演団体、演目、日程、休館日、開場時間については公式ホームページをご覧ください。

<http://aichitriennale.jp/>

プログラム Program (予定)

■ 現代美術 ■ パフォーマンス ■ プロデュースオペラ ■ 映像プログラム ■ 地元文化芸術団体との共催事業	
2010 8 August	9 September
10 October	

愛知芸術文化センター(愛知県美術館、アートスペース)

国際美術展、キッズトリエンナーレ、企画コンペ

愛知芸術文化センター(小ホール、ギャラリーGは日程調整中)

8/21-24 平田オリザ Oriza Hirata	9/3-4 デルガド・フッシュ Delgado Fuchs	9/11-12 梅田宏明 Hiroaki Umeda	9/24-26 チェルフイツチュ chelfitsch	9/28-10/10 (予定) 映像プログラム 「映像の第二世紀に向けて」	10/22-24 ニブロール Nibroll	10/26-28 ローズス Rosas
9/18-20 ヤン・ファープル Jan Fabre						

愛知芸術文化センター(大ホール、コンサートホール)

9/18, 9/20 「ホフマン物語」 指揮者=アッシャー・フィッシュ Asher Fisch 演出家=栗園淳 Jun Aguni	10/11-17 祝祭ウィーク (地元文化芸術団体との共催事業)	10/30-31 アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル+ ジェローム・ベル+アンサンブル・イクトゥス Anne Teresa De Keersmaeker + Jérôme Bel + Ictus
---	--	--

名古屋市美術館

国際美術展

長者町会場

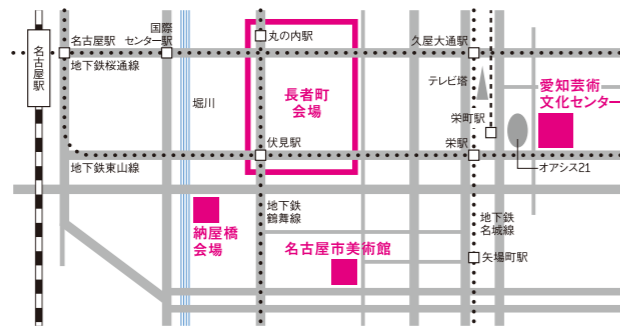
国際美術展、企画コンペ

納屋橋会場

国際美術展

オアシス21、久屋大通公園、名古屋城などの都市空間

国際美術展	9/24-25 スペクトラ・ナゴヤ	屋外パフォーマンス	屋外パフォーマンス	屋外パフォーマンス
-------	-------------------	-----------	-----------	-----------



Features from the Artists

参加アーティストの中から会場ごとにご紹介します。

名古屋市美術館 ジェラティン Gelitin

1993年結成、オーストリアを中心に活動
 4人組のアーティスト集団ジェラティンは、常に奇想天外な作品でわたしたちの眼を驚かせてくれます。愛知ではどんな作品を展開するかはまだ秘密ですが、インスタレーションからパフォーマンスまで幅広い表現のバリエーションを持つ彼らは、美術史の文脈を踏まえ、展示場所の特徴を異化しながら、観る者を必ずやアッと驚かせてくれるに違いありません。



「Klunck buddism」
2009
小山登美夫ギャラリー(東京)での展示

愛知芸術文化センター 松井紫朗 Shiro Matsui

1960年奈良県生まれ、京都在住
 空気を絶えず送り込むことで緩やかにたゆたうバルーンを用いたインスタレーションで知られるアーティスト。トリエンナーレでは、屋内庭園から愛知芸術文化センター10階の巨大なフォーラム空間へと伸びる、鮮やかな緑色のバルーンを設置。建物の内側と外側とがダイナミックかつ軽やかに繋がります。



「あいちトリエンナーレ2010の
ためのプラン」
2009

愛知では9セットの35ミリフィルムの映写機から9枚のスクリーンに向けて同時に映し出される、映像のインスタレーションを展開します。恋人たちのラブロマンスから格闘シーンまで、一見するとそれぞれに脈絡のない9つの場面が繰り返されているように見えます。しかし、いつの間にか観る者のなかで一つの物語に収斂していくようにも感じられる、不思議な体験を促す作品です。

納屋橋会場 ヤン・フードン Yang Fudong



「Dawn Mist, Separation Faith」
2009
Japan Foundation, Sydney Australia



「室内森 / 粘土神」
2009年
撮影:山田直

長者町会場 浅井裕介 Yusuke Asai

1981年東京生まれ、東京在住
 長者町プロジェクト2009ではマスキングテープの植物をビルの外壁や室内空間に繁茂させ、泥を用いて窓ガラスにドローイングを展開した浅井。有機的に成長する長者町地区と呼応するように、まちの様々な空間に、今年も不思議な植物が増殖してゆきます。身近な素材を巧みに利用しながら、見慣れた街の風景の中に独自の世界を忍び込ませ都市の魅力を引き出していくアーティストです。



「Haptic 2」
©Shin Yamagata



「Abschied ドライアップシート
(3つの別)」
©Herman Sorgeloos

愛知芸術文化センター大ホール アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル + ジェローム・ベル + アンサンブル・イクトゥス Anne Teresa De Keersmaeker + Jérôme Bel + Ictus

世界的なダンスカンパニー、ローザスを率いるアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケルがベルギー王立モネ劇場を震撼させた話題作を日本初演します。マーラー作曲「大地の歌」をベースにしたこの作品は、アンサンブル・イクトゥスの演奏家と、オペラ歌手、振付家のケースマイケルが舞台で共演するというゴージャス、かつトリエンナーレのフィナーレを飾るに相応しい、世界最先端のアートを感じさせる作品です。

海外の名だたる劇場やフェスティバルで引っ張りだこの梅田宏明による本格的な日本公演を行います。愛知芸術文化センターの小ホールでは日本初登場作品を含む2作品を紹介するほか、納屋橋会場においてインスタレーション作品も発表し、パフォーマンス・アーツとヴィジュアル・アーツの双方からのアプローチを試みます。

愛知芸術文化センター小ホール、 納屋橋会場 梅田宏明 Hiroaki Umeda

1977年東京生まれ。

参加アーティスト・公演団体等

現代美術 アデル・アブデスメッド Adel Abdessemed フアン・アラウホ Juan Araujo ズリカ・フアブデラ Zoulikha Bouabedellah 蔡國強 Cai Guo Qiang ミカラシジェロ・コンサーニ Michelangelo Consani ケリス・ウィーン・エヴァンス Cerith Wyn Evans トム・フリードマン Tom Friedman シブリアン・ガイヤール Cyprien Gaillard ジェラティン Gelitin オリバー・ヘリング Oliver Herring ホン・スー・チエ Huang Shih Chieh 池田亮司 Ryoji Ikeda ヤコブ・キルクゴール Jacob Kirkegaard ルシア・コッコ Lucia Koch 小金沢健人 Takehito Koganezawa 小泉明郎 Meiro Koizumi 草間彌生 Yayoi Kusama フィロス・マハムド Firoz Mahmud 松井紫朗 Shiro Matsui 三沢厚彦 + 豊嶋秀樹 Atsuhiko Misawa Hideki Togoshima 宮永愛子 Aiko Miyanaga 西野達 Tatzu Nishi ハンス・オプ・デ・ビーク Hans Op de Beeck アマリア・ピカ Amalia Pica ナウイン・ラワンチャイクン Navin Rawanchaikul ジラユル・アングジャラス Jirayu Rengjaras ダウ・デリヴァルタ Davide Rivalta 志賀理江子 Lieko Shiga 島袋進浩 Shimabuku カメン・ストヤノフ Kamen Stoyanov 高橋格 Tadasu Takamine タチアナ・トルルーヴェ Tatiana Trouvé ツァン・キンフ Tsang Kin Wah	梅田宏明(舞台公演もあり) Hiroaki Umeda ヘマ・ウパディヤイ Hema Upadhyay 渡辺英司 Eiji Watanabe スン・ユアン・ペン・ユ Sun Yuan Peng Yu エクトル・サモラ Héctor Zamora ヤン・フードン Yang Fudong ジャン・ホアン Zhang Huan 青田真也 Shinya Aota 浅井裕介 Yusuke Asai マーク・ボスウィック Mark Borthwick 市川武史 Takefumi Ichikawa 石田達郎 Tatsuro Ishida ジュー・チュンリン Joo Choon Lin 川見俊 Shun Kawami 木村兼人 Takahito Kimura KOSUGE 1-16 コスゲイチノジュウロク 村田峰紀 Mineki Murata 小栗沙弥子 Sayako Oguri ジム・オヴエルメン Jim Ovelmen ピップ&ポップ Pip & Pop ナタリヤ・リボヴィッチ & 藤田央 Natalija Ribovitch Toru Fujita 齊と公平太 Kouheita Saito 志村信裕 Nobuhiro Shimura アーヒム・シュティアーマン + ローランド・ラウシュマイアー Achim Stiermann Roland Rauschmeier トーチカ TOCHKA 梅田哲也 Tetsuya Umeda 山本高之 Takayuki Yamamoto 山下麻衣+小林直人 Mai Yamashita Naoto Kobagashi	チェルフイツチュ chelfitsch スティーブン・コーヘン Steven Cohen ティム・エッチェルス/フォード・エンターテイメント Tim Etchells / Forced Entertainment ヤン・ファープル Jan Fabre デルガド・フッシュ Delgado Fuchs 平田オリザ+石黒浩研究室(大阪大学) Oriza Hirata + Ishiguro Laboratory (Osaka University) アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル+ジェローム・ベル+アンサンブル・イクトゥス Anne Teresa De Keersmaeker + Jérôme Bel + Ictus ソニア・クハラナ Sonia Khurana ニブロール Nibroll ラ・リボット La Ribot ローザス Rosas 梅田宏明 Hiroaki Umeda
屋外パフォーマンス コンタクト・ゴンゾ contact Gonzo まことクラヴ Makotoclouv	プロデュースオペラ アッシャー・フィッシュ(指揮者) Asher Fisch(Conductor) 栗園淳(演出家) Jun Aguni(Stage Director)	映像プログラム ジョナス・メカス Jonas Mekas 石田尚志 Takashi Ishida 辻直之 Naoyuki Tsuji
パフォーマンス アン・トニア・バエー Antonia Baehr ボリス・シャルマツ Boris Charnatz	アルファベット展 順次追加されます。演目、日程、開演時間など詳細についてはホームページをご覧ください。	



Steven Cohen
"Chandelier"